

## Ⅳ ワークショップ

失語症の方とコミュニケーションする時に役立つものとして「スマホ／タブレットPC」と「イラスト」をとりあげました。この2つは会話パートナーから勉強したいとしばしば上がる項目です。少しでも皆さんの声に答えたいと企画しました。

この講座をきっかけに、失語症の方たちとの会話がより豊かに楽しく有意義なものになることを願っています。

### 報告

#### ① スマートフォンやタブレットPCを使って

参加者 38名



講師：石橋孝高／いしばしよしたか  
和音会話パートナー。IT 関連会社にフルタイムで勤務するかたわら、新宿失語症友の会のパソコン教室でボランティア。  
趣味はクラリネット。

スマートフォンやタブレットなどは上手に使うと失語症の方との会話が助けられ、タブレットと一緒に眺めて楽しくおしゃべりも出来る。今回は失語症の方にとって有効と思われる機能をいくつか紹介する。

##### 1. 検索する(地図帳や事典・辞書の代わりに) ～インターネット～

地図では画面をどんどん広げて細かい地名などまで探す事ができる。また、事柄、有名人、過去のニュース、歌などの名前がわからない時、関係したことばや記憶の断片を幾つか羅列して入力するだけで答えの候補が上がってくる。歌は歌詞だけでなく、メロディーやカラオケなども出てくる。

##### 2. 文字を入力する ～手書きや音声で文字を入力する操作～

スマホ・タブレットの画面に手書きで文字を書いて入力したり、音声で入力したりするやり方を紹介。キーボードから仮名文字を探して入力するのが難しい失語症の人には利用できそう。

##### 3. 手書のメールを送る

手書きの文字や絵をそのまま送信したり、メールに写真を添付する操作を紹介。アプリ「手書き電話 UD」を使えば、遠くの人と文字や絵での「会話」ができる。

##### 4. お手軽テレビ電話 ～「FaceTime」を使って遠隔地の人と会話をする操作～

「FaceTime」によって、手軽にテレビ電話が行えることを紹介した。失語症の人が外出しにくい場合、家にいながら会話の機会が持てる。

5. 画面を写真にとり保存 ～起動ボタン2つを同時に押す(機種により違いあり)～  
出ている画面を写真として保存。見たい時にその画面をすぐに出す事が出来、便利だ。

#### 6. スマホ周辺のかawaiiグッズ

スマホに接続できる小さなプリンターはメールや写真をその場でプリントできる。小さなプロジェクターはスマホの画面を壁に写し、みんなで画面を共有できる。

以上、ごく簡単に内容をご報告した。

詳細(アプリの名称、具体的操作など)を知りたい方は和音事務所へご連絡ください。使えそうなアプリが新しくどんどん開発されていますので、今後も継続して関心を持っていてください。ただし、操作にはまず「慣れ」が必要です。実際にどんどん触ってみてほしいと思います。



## ② 簡単イラスト講座

参加者 4 2 名



講師: 泉雅史 / いずみまさし

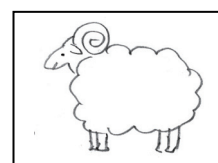
イラストレーター。1982 年東京都生まれ。主な仕事: 文芸誌の挿絵、書籍の装画、パンフレット・年賀状の挿絵など。

ウェブサイト [www.izumi-masashi.com](http://www.izumi-masashi.com)

この講座をきっかけにノートやメモにちょっとした落書きをするなど、普段から実物やお手本を見ながら描く機会を増やして欲しい。失語症の方との会話で必要なのは「すぐ描けて、簡単に伝わるイラスト」なので、今日は描き方のコツを少し話した後に実際に 1 分間で各自が描いたイラストを講評する。

●描き方のコツ (資料のイラストを使って説明)

①特徴的な部分を描く → 角・牙・模様・シルエット(大体の体形、かたち)



②無理に立体的にしない → 正面や横向きなど平面で描く

但し、立体的でない伝わらないものもある。例)皿の上の冷や奴

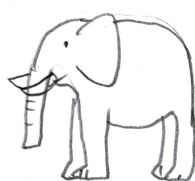
③形はだいたい、何となくのイメージ → 例)雀は群れている、コアラは幹につかまる

冷や奴に薬味や箸をそえる

### ●お題にあわせて描いてみよう!

1 分間でお題の絵を描く。ベルの合図でペンを置き隣同士で「何に見えるか」当てる。テーブル毎に、披露したい絵を他薦・自薦し、それについて講師が良い点などを講評する。

取り上げたお題)遊具、好きな動物、赤いもの (制限時間 各 1 分間)



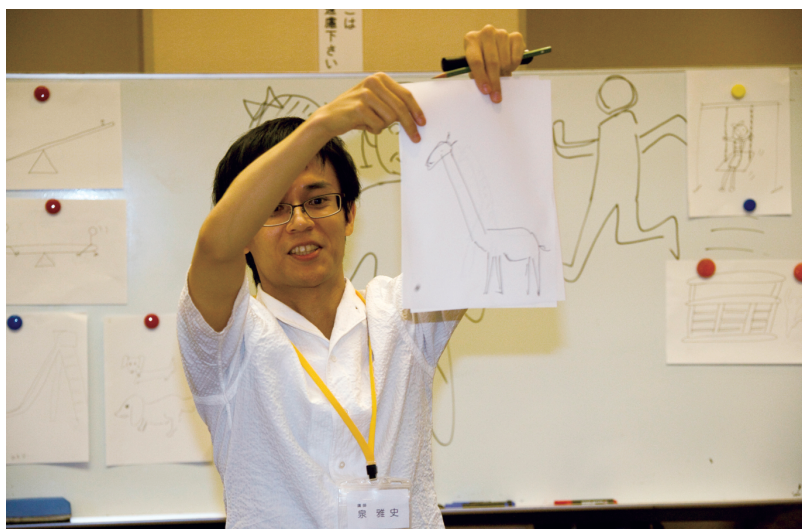
### ○会場の様子

講師の話の聞く時は皆さん真剣に集中し、お互いにイラストを見せ合う時はあちらこちらから笑い声や感嘆の声があがった。普段の活動で描き慣れている参加者は制限時間が余りお題にあった絵を複数描く方もいた。予想より参加者が多く、講評のときに絵(A4 紙)が見にくいときもあった。以下は皆さんが描いたイラストの例、( )内は講師のコメント。

\* 遊具: プランコ・滑り台・シーソー・ジャングルジム等 (人物も描きたすと大きさをイメージし易い)

\* 好きな動物: 犬・猫・キリン・イノシシ等 (猪のしっぽなど分からない部分は描かなくても特徴をとらえていれば十分に伝わる)

\* 赤いもの: りんご・トマト・ポスト・夕日等 (トマトのへたは星型にするとよい)



## 参加者の感想

「スマートフォン・タブレットPCを使って」に参加

東京都 世田谷区 新山 春子

わたしはスマホもタブレットも使っていないので、これからの会話の補助の新しい手法を学びたいと参加。和音のリソース手帳を取り込んだようなものかと予想していました。しかし、もっと進んだ利用法で、スマホとタブレットでの検索その他の機能を活用したものでした。キーワードを幾つか羅列して検索するだけで、候補のことばや写真が、見つけられるのは、失語症の人との会話にとっても役にたちそうです。（「黄色い花」「夏」「種を食べる」と入れたら、ぱっと候補の花の名前が幾つも出てきました。）また、今見ている画面を残す時は2カ所のボタンを一度に押すとその画像が写真の保存の中に入り、必要な時にすぐ見られるというのもびっくり。

時間の割に内容が多く、また実際に全員がタブレットを試す事もできなかったためわかりづらい点も沢山ありましたが、うまく使うととても有効なものだということがわかりましたので、使ってみようという気になりました。講師の石橋さん、お忙しいところ、有り難うございました。次回は期待しています。





## 「簡単イラストの書き方」に参加

千葉県 市川市 竹崎恵美

泉雅史先生のイラスト講座楽しく受講させていただきました。どうもありがとうございます。時間が短かったのがとても残念です。せめて60分は欲しかったかなと思いました。先生が講義に慣れてらっしゃらないのは見て取れましたが、とても一生懸命してくださったと思います。特徴をデフォルメして書くということを繰り返し強調され、実際に絵を書いてみるの指導はとてもよくわかりました。これからはシンプルでわかりやすいイラストを書くことが出来そうです。泉先生は私達が持っているもとの絵の能力でできるだけ簡単にわかりやすく描くということを教えていただき大変ためになりました。

もしこれからまたイラスト講座があるなら、絵が本当に苦手な人のために絵描き歌のように覚えれば簡単に描ける方法も教えていただけたらと思います。

